

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会
令和元年度 第3回理事会 議事録

- 1.開催日時 令和2年1月23日 午後6:40～午後8:10
 - 2.開催場所 宇佐美マラソン・スポーツ研究室
 - 3.理事総数 13名
 - 4.出席者数 4名（書面表決書4名）
出席者（山西哲郎、宇佐美彰朗、保原幸夫、鈴木良雄 敬称略）
書面表決書（前河洋一、岩山海渡、小林均、森川貞夫 敬称略）
 - 5.議長選任 議長として山西哲郎氏が選出された。
- 6.議事の経過の概要および議決の結果
- 第1号議案 前回理事会（8月1日開催分）議事録に関する件
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等がなかったため承認されたものとする旨報告があった。
- 第2号議案 議事録署名人の指名について
議事録署名人として宇佐美彰朗氏と保原幸夫氏が選出された。
- 第3号議案 平成31年（令和元年）度事業報告書案について
保原氏より、本年度の事業実施状況と収支決算について事業報告書案に基づいて報告があり、質疑応答を行った。
事業別収支は下記の通りである。
- ①「JSIEマラソン教室」、「JSIEマラソンセミナー」、「熟年ランニングスクール」については参加人数もほぼ前年並みで推移しており、12月末時点での見込み決算では、基本的に参加費収入と講師料等の経費がバランスするようにしているので収支はほとんど±0だった。傷害保険料の調整の関係で多少プラスとなっている。
 - ②「北海道マラソン教室」についてもほぼ昨年同様の実績で、約5万円の収益であった。
 - ③浦安市富岡公民館依頼のランニング教室については、今年は「千葉県民の日、子供ランニング広場」が中止になったため、「美走塾」のみの開催となり、収益は4万5千円だった。
 - ④3月開催の「静岡マラソン」への講師派遣およびゲストランナー派遣については、大会事務局より今年は依頼しない旨連絡があった。理由は、当初は徳川家康の長寿にちなんで往年のリジェンドランナー参加による盛り上げを図ったが、ほぼ目的は達成したとの判断に至ったとのこと。
 - ⑤「メルボルンマラソン」については、定款の事業区分上、国内における集客事業と現地における参加者交流事業に分けてあるが、40万円強の収益を上げることができた。
年度当初は契約条件が厳しくなったことで、継続が危ぶまれる状況だったが、現地ボランティアチームの結成によるスタッフ旅費削減および窓口業務の内製化による事務所経費削減で経費を25万円ほど削減できた。
それに加え、連休開催だったことが幸いしたのか参加者が前年比60名増になった上に

急激な円高により収益が好転したことが大きな理由である。

まだ 20 万円程度の累積赤字は残っているが、次年度以降の運営経費は何とか確保出来た状況である。

- ⑥「フィリピンの女子マラソンオリンピック代表候補選手のトレーニング支援」については、本人からの要望もあり、リオに引き続き行ったが、参加標準記録が 2 時間 45 分から 2 時間 29 分 30 秒になったため、目標をオリンピック出場から 12 月の SEA Games2 連覇にせざるを得なかった。結果は、残念ながら連覇はできず銀メダルに終わった。

収支については、必要経費を先方に請求しているのではほぼ±0 だった。

- ⑦下期から「エコノミカルランニング研究会」を新に立ち上げ、宇佐美副理事長が提唱しているランニングフォームを中心とした合理的ランニングに関して、理論的根拠の理解をマラソン教室の参加者に深めていただくことにより実績、体験の科学的裏付けをしようとみんなで議論している。

参加費無料でやっているのので、収支は±0 になる。

その結果、事業部門収支はトータルで約 53 万円の収益となった。

一方、年会費収入が 10 万円を切っているため、理事会の開催回数を減らすこと等で管理費を削減したにもかかわらず管理部門収支は約 5 万円程度の赤字となった。

総合収支としては約 48 万円の黒字になる見込みである。

第 4 号議案

令和 2 年度事業計画について

本年度の事業報告に基づいて、次年度の事業計画について審議した結果、下記方針で活動を行うことになった。

■「J S I E エコノミカルランニング教室（旧 J S I E マラソン快走教室）」、「熟年ランニングスクール」および「J S I E エコノミカルランニング研究会」は継続。

■浦安市富岡公民館から依頼があれば、「美走塾」、「千葉県民の日、子供ランニング広場」も継続。

■「北海道マラソン教室」は、オリンピックマラソンの札幌開催に伴って、北海道マラソンが中止になるので、今年は主催のランナーズサポート北海道が通年で開催していたマラソン教室とコラボレーションした形で、前期は「自分の身体を知る、ラン練習法を学ぶ」をテーマに 5 月 10 日～7 月 21 日の間に 4 回、後期は「北海道マラソン 2021 につながる走りを」をテーマに 8 月 30 日～11 月 8 日の間に 4 回を北海道教育大学の杉山教授、北海道医療大学の山口教授、井上講師を中心に行い、必要に応じ、山西理事長、宇佐美副理事長の特別講習を組み入れたいとの連絡があったので、当協会の対応について審議した。

基本的には、了解することとした。

当協会からは、昨年好評だった宇佐美理事長のフォームチェック&アドバイスを 5 月 10 日に組み込んでもらいたい旨を申し入れることにした。

山西理事長の講演についてはスケジュールを確認して後日連絡することになった。

■その他、新規事業については会員の皆さんから提案があった時点で、都度協議して実施することとし、当面計画には盛り込まないことになった。

第5号議案 今後の協会運営について
山西理事長よりこの議題については次回以降に協議したいので、本日は行わないとの話があり、
審議しなかった。

第6号議案 その他
■次回理事会について
次回理事会を3月23日(月)の18時30分から宇佐美マラソン・スポーツ研究室で開催
することになった。

以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後8時10分議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

令和2年1月23日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議長

山西 坂 洋



議事録署名人

宇佐美 彰 朗



議事録署名人

保原 幸 夫

